令和５年度　学習指導に関する取組

１　学習指導上の主な実態

（１）国・県・市の学力調査などから

・全体として，どの教科も正答率が高く学習内容がほぼ身に付いているといえる。

・国語では，書くことについて，複数のテキストの内容を比較し情報を精査する力や目的や相手に応じて必要となる情報を選択する力の育成が必要である。

・算数では，正答率は概ね高いが個人差が見られる。

・理科では，実験で得た結果を，視点をもって分析・解釈し，自分の考えを記述する力の育成が必要である。

（２）国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから

・「勉強が好きか。」という質問に対する肯定的な回答の割合は，低学年で 81%，中学年で 70%，高学年で 63%と，ほとんどの学年で市の平均を 1～9 ポイント下回るなど改善が必要な状況である。一方，「授業が分かるか。」に対する肯定的回答の割合は 97.7%　で市の平均を５ポイント上回り望ましい傾向といえる。

・授業への取り組みについては，学習や気持ちや態度についての肯定割合が高く，学習への意識の高まりが感じられる。　また，「グループなどでの話し合いに自分から参加している。」「自分の考えを根拠をあげながら話すことができる。」に対する肯定割合は，どの学年も市の平均を上回っている。

・家庭学習（宿題，自主学習）への取組については，91.7%の児童が宿題を期限までに提出していると答えている。昨年より肯定的な回答の割合が下がっている学年もあるので，学力アップ月間等を活用しながら家庭とも連携を図っていきたい。

・「自分で計画を立てて，家庭学習に取り組んでいるか。」に対する肯定的回答はすべての学年において市の平均を下回った。

（３）授業等への取組状況から

・全体的に学習のきまりや進め方が身に付き，意欲的に課題に取り組むことができる。また自分の気付きや疑問を様々な方法で追究し,自分なりの結論を出せるようになってきた児童が多いが,理解力や思考力･表現力･コミュニケーション力などには個人差が大きい。

・自分の考えを発表する力は付いてきたが，友達の考えに耳を傾け，互いによく聞き合い，より良い考えを導く力はまだ十分とは言えない。

・1 人 1 台端末などのデジタル機器を活用し，調べたことをまとめたり，相手に分かりやすく自分の考えや調べたことを伝えたりするなど，ＩＣＴを活用する力が着実に身に付いてきている。

２　今年度の重点目標

～主体的・探究的・協働的に学ぶ児童の育成～

・児童自ら考え分かりやすく表現できるようにするための授業の進め方の工夫

〇基礎・基本定着のための「じっくりタイム」の実施と家庭学習の習慣化

・夢や希望の実現に向けて努力する態度を育むためのキャリア教育の推進

・よりよい授業を目指した学力調査等の結果を分析・活用した授業改善

３　今年度の取組

★:「第２次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」に関する取組
□:「令和５年度指導の重点」に関する取組
○:授業における取組のうち重点

（１）授業づくり及び教師の指導・支援の工夫（通年）

★□○「宇都宮モデル」を活用して，単元（題材）の目標を十分に分析した上で，本時レベルで期待したい児童の具体的な姿を想定してねらいの焦点化を図り，本時のゴールを意識した課題の設定・提示の工夫をする。

★□○学びに向かう力や協働して課題に取り組む態度を身に付けられるように「ペア」「小グループ」「全体」など，児童の実態やねらいに応じて学習形態を工夫し，児童同士で情報交換をしたり教え合ったりしながら，互いに認め合い，共に伸びられるようにする。また，ＩＣＴ機器を効果的に活用するとともに，児童が自ら分かりやすく表現できる学習活動を重視する。

★□○日々の授業において，認める，**褒める**，励ます指導に努めるとともに，振り返りの学習活動における自己評価や相互評価を工夫したり１人１台端末を活用したりして，児童が自他のよさへの認識を深め，自信をもって学習に取り組めるようにする。

（２）各教科における基礎･基本の確実な定着（通年）

★基礎・基本の定着のためのじっくりタイムの実施や，学力アップ月間を通して自ら学ぶ家庭学習の習慣化や復習する機会を設け，基礎・基本の確実な定着を図る。

★基礎・基本を確実に定着させるため，ＡＩ型個別学習ドリルの取組状況等の教育データやパワーアップシートなども活用し基礎的な学習内容の復習を行う。

★４～６学年全学級の算数科において少人数・習熟度別学習・ＴＴを導入する。児童の実態や単元のねらい，学習効果等を考慮して形態を工夫し，かがやきルームとも連携して計画的に学習を進める。また，高学年における教科担任制の推進を図る。

★○継続的・計画的に適切な分量・内容の宿題を出し，保護者とも連携しながら，家庭学習の習慣を身に付けられるようにする。

○家庭での自主学習を奨励する。学年の実態に応じた指導・支援を行い，自分に必要な学習について，自分で計画を立て，主体的に家庭学習が進められるようにする。また，参考になるノートを掲示するなどして，内容の高まりが見られるような工夫をする。

★□○学校全体の学力アップ月間を年２回設け，計算力や漢字力アップなどのポイントを絞って基礎学力アップを図る。また，保護者とも連携し，「家庭学習の記録」を活用して，家庭学習を充実させる。

（３）夢や希望の実現に向けて努力する態度を育むためのキャリア教育の推進

★□地域や公共機関との連携により，生活科・総合的な学習の時間など，地域の施設を利用した学習を展開する。（八幡山，地域の商店や事業所，公共施設，昭和小子どもインターンシップなど）

★幼稚園（生活科）や中学校（運動会・あいさつ運動・宮っ子チャレンジウィークの受け入れ･中学校見学など）との連携を通して，将来への希望と協働する力を育む児童を育成する。

（４）確かな学力を育むための指導力向上と授業改善

★□授業研究会や一人一授業等，授業を相互に見合う機会を設け，それぞれの授業づくりのポイントやこつを情報共有したり，児童の学びの事実を見取り，それに基づいた授業研究を通して教師間で学び合ったりすることで，授業力の向上と主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業実践に努める。

★□○各種学力調査の結果を職員研修の中で分析・活用し，学習に係る課題等を明らかにした上で共通理解を図り，学力向上に向けた実効性の高い取組の共通実践に努める。

○各教科の学びや文章での振り返り等を書く場面で，指定された条件や構成で文を書く学習を意識的に取り入れる。

□校内研修やＩＣＴ支援員の活用により，教師の基礎的な情報活用能力の向上を目指す。

○ＧＩＧＡスクール構想のもと，児童が１人１台端末や高速通信ネットワーク等のＩＣＴ環境の活用を図りながら，協働学習ツールやＡＩ型ドリルを積極的に活用した学習活動を展開する。

★□現代的な諸問題に対応していくための資質・能力を，教科等横断的な視点で各教科等の関連付けを図るカリキュラム・マネジメントを通して育成する。

〇教科が好きという児童を育てるために，児童の興味を引く教材や本の提供をしたり，知識や情報を共有し児童の話を聞く機会を設けたり，教科に関するイベントや体験を提供したりする。